受賞者喜びの声

愛媛新聞賞と愛媛新聞スポーツ賞が7日、7団体と19個人に贈られた。社会、経済、文化、スポーツの各分野で活躍し、郷土の発展に貢献した受賞者に喜びの声や今後の抱負を聞いた。

（1面参照）

愛媛新聞賞

地域おこし後押し

高山良二さん（NPO法人国際地雷処理・地域復興支援の会理事長）県人として受賞は光栄。地雷処理とともに地域おこしに取り組むカンボジアは1次産業に素晴らしい産品があり、加工産業を伸ばし世界に流通させたい。愛媛県と現地の州政府が友好交流の覚書を締結。人々の結び付きもお手伝いしていくつもりだ。

地元貢献続けたい

一宮隆宏さん（一宮グループ代表）よそに出ると今まで以上に古里のありがたさが分かる。50歳まで世界各国を飛び回っていたが、愛媛に帰ってきてからは地元貢献を考えてきた。将来的にも県内に本社拠点を置いていく道筋を後輩たちに伝え、私が育った地域の企業としてやっていきたい。

愛媛新聞賞・愛媛新聞スポーツ賞の受賞者ら＝7日午後、松山市のホテル（撮影・大津貴生）

俳句で世代つなぐ

坪内稔典さん（俳人・俳句研究者）僕ら文学の業界では古里で認めてもらうことが一番難しい。そこで賞をもらったことがうれしい。世代間の断裂が大きくなっているが、俳句は世代をつなぎ、老人と孫世代が共に楽しめる句会を各地でやっていきたい。

愛媛新聞スポーツ賞

先輩追いかけ成長

鮫島浩二監督（松山城南高自転車競技部、自転車の北宅怜欣選手、渡辺敦馬選手の代理）2018年度の3年生と比べてどうか、という不安を裏切ってくれた。先輩を追いかけることで成長した。下級生の良い見本にもなり、1、2年生も楽しみになった。

高め合って頑張る

井上智貴選手（新田高テニス部）うれしいのと同時に、これからも頑張らないといけないなと、身が引き締まる思い。（ペアを組んで優勝した）丹下将希選手と互いに高め合っていきたい。

国体で雪辱できた

小槙佳子選手（アーチェリー少年女子愛媛選抜、松山東雲高）初出場の岩手国体では2位と悔しい思いをしたが、高校最後の国体でリベンジできた。大学ではナショナルチームに入り、経験を積みたい。

地道な練習実った

伊東美咲選手（愛媛大附属高ボート部）これまでの頑張りがようやく形になってうれしい。こつこつ練習に励んだことで、本番でも力強いこぎができた。受賞をプラスに変えて今後も結果を残す。

学生と混成楽しむ

玉木里奈選手（弓道成年女子愛媛選抜）学生の2人との混成チームはとても楽しく、ポジティブな気持ちで国体に臨むことができた。高校生には一般で競技を続けて、さらなるレベルアップを目指してほしい。

今後も好成績残す

榊井光選手（[illegible]少年団体、新田青雲中教校）名誉ある賞をいただけてうれしい。愛媛県に貢献できたと思う。ここをゴールにせず、今後も大きな賞をいただけるような成績を残していきたい。

支えに感謝したい

阿久根真奈選手（愛媛FCレディース主将）受賞は非常に光栄。支えてくれた人に感謝したい。2020年シーズンは厳しい戦いになるが、個人もチームもレベルアップして、強い気持ちで挑みたい。

予想を超える活躍

松本敬人選手（松山工業高ボクシング部）自分でもここまで活躍できるとは思っていなかった。受賞してより頑張ろうと思った。進学する大学ではレギュラーになり、チームとして1部昇格を果たすことが目標。

満足せず春へ準備

西山未奈美選手（松山大女子駅伝部）素晴らしい賞をいただけてうれしい。これに満足せず、春から良いスタートが切れるようにしっかり準備して、どの種目でも結果を残せるようにしたい。

選出は自信になる

村上裕三郎選手（松山工業高自転車競技部）昨年は受賞を逃したが、今回選出され、うれしく自信になる。現在は3月の全国高校選抜へ向け、強度の高い練習をしている。次回も選ばれるような活躍をしたい。

東京五輪を目指す

崎山雄太選手（陸上成年男子やり投げ、県競技力向上対策本部）選んでいただき、感謝の気持ちでいっぱい。今年はこの勢いを良い形でつなげて、85メートル超えの記録と五輪出場を目指して練習していきたい。

東京パラで「金」を

山口尚秀選手（パラ競泳世界選手権男子100メートル平泳ぎ優勝）大勢の支えのおかげ。筋力をつければ、もっとタイムを縮められる。東京パラリンピックで記録を更新し、金メダルを取りたい。

来賓氏名

（順不同、敬称略）

[illegible]